



©2005 石塚真一/小学館

第 253 号(令和4年(2022 年)2月 22 日)

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ  
特別隊員

## 島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は長野県の山岳地域で発生した遭難事例をお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。(詳細は以下のとおり)

**雪崩にご注意を!**  
～県内でも遭難事案発生～

雪山を楽しむ皆さまへ

# 7 STEPS

TO AVALANCHE SAFETY



素晴らしい自然の中で安全かつ楽しい時間を過ごすには、事前の準備や練習、そして現場での適切な状況判断など、さまざまな知識や技術、経験、そして仲間との協力が必要です。この7つのステップは、各段階での重要な要素と全体の流れを理解する上で助けとなるでしょう。

バックカントリーの雪崩対策 | 7つのステップ

MORE INFO

[www.nadare.jp](http://www.nadare.jp)

※最終頁に添付

**天気・防災情報** <https://www.jma-net.go.jp/nagano/>

**雪崩情報** [https://nadare.jp/avalanche\\_informations](https://nadare.jp/avalanche_informations)

**を確認し万全の準備で入山を!**

### 長野県警山岳安全対策課からのワンポイントアドバイス

2月3週は2件の山岳遭難が発生しました。県内は北部を中心に大雪となり、積雪が更に増加しています。標高が高い山域では、積雪が非常に深いため、ラッセルにより、時間や体力が相当必要になる場合があります。また、今後の気温上昇によっては、雪崩のリスクが更に高まるため、事前に入山前の天候や積雪状況について下調べを行い、雪崩を回避する行動を心がけるとともに、必ず雪崩対策装備(ビーコン・プローブ・ショベル)を携行してください。登山やバックカントリーを計画される方は、自身や仲間の体力・技術に見合った計画を立てるとともに、気象情報を必ず確認し、悪天候の場合には、入山の延期または中止をしましょう。

### 発生状況

日付	場所	年齢	性別	態様	死傷別	概要
2月19日	浅間連峰 黒斑山	57	男	滑落	死亡	3人パーティで黒斑山に向けて登山中、トーマの頭付近でアイゼンをひっかけ滑落

19日、3人パーティで浅間連峰黒斑山に入山した男性(57歳)が、トーマの頭付近で滑落する山岳遭難が発生し、20日、警察本部山岳遭難救助隊及び浅間連峰地区山岳遭難防止対策協会救助隊員が発見し収容しました。

2月19日	北アルプス 唐松岳 八方尾根 無名沢	46	男	雪崩		2人パーティでバックカントリーを滑走中、雪崩に巻き込まれたもの(救助対応中)
19日、2人パーティで北アルプス八方尾根に入山した男性(46歳)が、バックカントリーを滑走中に雪崩に巻き込まれる山岳遭難が発生しました。						

令和4年(2022年)中の山岳遭難発生状況(令和4年(2022年)1月1日～2月20日)

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	内)死傷者
令和4年(2022年)	19	2	0	6	16	24	8
内)BC	6	0	0	1	6	7	1
令和3年(2021年)	11	2	0	5	7	14	7
前年同期比	+8	±0	±0	+1	+9	+10	+1
内)BC	-1	-1	±0	-2	+1	-2	-3

■山域別発生状況(令和4年(2022年)1月1日～2月20日)

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北アルプス	槍穂高	0	0.0%	0	0	0	0
	後立山	4	21.1%	0	0	1	5
	その他	0	0.0%	0	0	0	0
	計	4	21.1%	0	0	1	5
中央アルプス	4	21.1%	0	0	1	3	4
南アルプス	0	0.0%	0	0	0	0	0
八ヶ岳連峰	5	26.3%	1	0	2	4	7
その他の山岳	6	31.6%	1	0	2	4	7
計	19		2	0	6	16	24

■態様別発生状況(令和4年(2022年)1月1日～2月20日)

区分	件数	件数 比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	5	26.3%	1	0	4	0	5
転倒	1	5.3%	0	0	1	0	1
病気	1	5.3%	0	0	0	1	1
道迷い	6	31.6%	0	0	0	10	10
落石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪崩	1	5.3%	0	0	0	0	0
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	1	5.3%	1	0	0	2	3
不明・他	4	21.1%	0	0	1	3	4
計	19		2	0	6	16	24

■男女別・年齢別比率(令和4年(2022年)1月1日～2月20日)

区分	男性					(人)	女性					(人)	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計	比率	死者	不明	負傷	無事	計	比率	人数	比率
19歳以下	0	0	0	0	0	5 26.3%	0	0	0	0	0	3 60.0%	0	8 33.3%
20代	0	0	0	4	4		0	0	0	2	2		6	
30代	0	0	0	1	1		0	0	1	0	1		2	
40代	0	0	2	4	6	9 47.4%	0	0	1	0	1	1 20.0%	7	10 41.7%
50代	1	0	1	1	3		0	0	0	0	0		3	
60代	0	0	1	2	3	5 26.3%	0	0	0	0	0	1 20.0%	3	6 25.0%
70以上	0	0	0	2	2		1	0	0	0	1		3	
計	1	0	4	14	19		1	0	2	2	5		24	
比率	79.2%						20.8%							

内容は長野県警察本部の発表時点のものです。

\* 本通信に関するご質問・ご意見は「長野県観光部山岳高原観光課」[mt-tourism@pref.nagano.lg.jp](mailto:mt-tourism@pref.nagano.lg.jp)までお寄せください。

# SEVEN 7 STEPS TO AVALANCHE SAFETY

❄️ 素晴らしい自然の中で安全かつ楽しい時間を過ごすには、事前の準備や練習、そして現場での適切な状況判断など、さまざまな知識や技術、経験、そして仲間との協力が必要です。この7つのステップは、各段階での重要な要素と全体の流れを理解する上で助けとなるでしょう。

## バックカントリーの雪崩対策 | 7つのステップ

MORE INFO [www.nadare.jp](http://www.nadare.jp)

STEP

1

### 雪山とスキー場

BACKCOUNTRY AND SKI RESORTS



- 山には管理されていない危険がある
  - 十分な経験がある人と出かける
  - 正式な資格を持つガイド※1を利用する
- スキー場のルール※2を守る
  - 決められたところから外へ
  - 隣接した禁止区域に入らない

STEP

2

### 装備を持つ

GET THE GEAR



- 雪崩ビーコン、プローブ、ショベルを携帯する
  - 装備は安全を保証しない
- 山の装備も整え、仲間と定期的に練習する

STEP

3

### 訓練をする

GET THE TRAINING



- 雪崩を学ぶ
  - 「留意すべき雪崩」の特徴
  - 地形選択と気象変化が安全に与える影響
  - グループとしての賢い選択
  - 捜索救助
- 山の技術を学ぶ
  - 身を守る技術と知識
  - 体力
  - 雪質に影響されない滑走スキル
- 応急処置を学ぶ

STEP

4

### 計画を立てる

MAKE A PLAN



- 地形を調べ、目的の山域の情報を集める
  - グループに見合った目標と制限を設ける
- 登山届を提出する
- 当日の気象情報と雪崩情報を確認する

STEP

5

### 状況に気づく

KEEP AWARE OF THE SITUATION



- 積雪と気象の変化は?
  - 雪崩情報と実際のズレ
  - 積雪の不安定性を示す直接証拠
  - 風、降雪、気温の変化
  - 風で移動して堆積した雪
- 地形の特徴と曝される危険の大きさは?
  - 複合的な地形か、シンプルな地形か
  - 地形規模と安全地帯
  - 「地形の罅」はあるか
- 仲間とのコミュニケーションは?
  - 皆が行動に無理を感じていないか
  - 気になることを率直に会話しているか
- 結末の重大性は?

STEP

6

### リスクを減らす

REDUCE YOUR RISK



- 「留意すべき雪崩」に対する最適な安全戦略
  - 斜度を落とすことがどの雪崩でも有効
- 雪崩の危険に曝される時間と人数をマネジメント
  - 滑る斜面には一人ずつ入る
  - 雪崩地形内で休憩やテント泊をしない
  - 適切な間隔を開けた速やかな移動
  - 仲間と声や目視でのコンタクトを保つ
  - より安全な地形を探し、利用する
- 他グループとの関係
  - 自分の上方あるいは下方にいるグループの存在
  - 下がクリアでない時、意図的な雪崩を起こさない

STEP

7

### 捜索救助を行う

CONDUCT SEARCH AND RESCUE



- 時間がすべて、まず現場にいる人たちで対処する
  - 雪崩の埋没は10分で顔を出す
  - 近くにいる人は捜索救助に協力※3する
- 被害が拡大しないことを考える
- 対処が難しいと感じたら速やかに通報(110番)する

※1:公益社団法人日本山岳ガイド協会  
 ※2:全国スキー安全対策協議会「スノースポーツ安全基準」  
 ※3:日本雪崩捜索救助協議会  
 ©2018 日本雪崩ネットワーク

